

鵜戸神宮：お乳水

このたらいに入った水は、左側にある岩窟の壁から突き出た鵜戸神宮の「お乳岩」から引かれています。岩窟の水は、岩の下を流れる小川のおかげで凍ることがなく、かつてはたっぷりと流れていたため、古くから地元の人々に崇拝されてきたと考えられています。この水は出産時に使用されたと考えられており、乳児用粉ミルクが発明される以前は生死に関わる問題であった、十分な量の母乳を象徴するものでした。来訪者は、江戸時代（1603～1867 年）からこの神宮で作られ、岩窟の入り口そばのお守り販売所で売られている飴の製造にも利用されるこの水を、備え付けの柄杓を使って飲むことができます。